

令和7年度 連携型中高一貫教育 実施報告

＜飛騨地区＞ 神岡中学校・山之村中学校・飛騨神岡高等学校

1 連携型中高一貫教育の目標とその達成に向けた具体的な取組

(1) 連携型中高一貫教育の目標

「ともに育てよう元気な神岡の子」をめざし、地域の子どもたちを地域ぐるみで育て、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成し、生徒の自己肯定感を高める。そして、地域と連携・協働して地域に愛着と誇りをもつ子を育て、地域の活性化につなげる。

- ①夢・目標に向かって挑戦し、自分から学ぼうとする子
- ②地域に愛着と誇りを持ち、地域に貢献できる子を育てる。

(2) 連携型中高一貫教育の令和7年度の重点

- ・中高教員や生徒同士の授業交流活動の充実による自分から学ぼうとする力の育成
- ・地域の人や産業から学ぶ体験学習の充実による目標に向かって挑戦する心の醸成と、生徒・保護者・地域との交流活動の推進による地域に貢献する態度の育成

2 目標達成に向けた具体的な取組における成果と課題

目標	取組	概要及び成果と課題
夢・目標に向かって挑戦し、自分から学ぼうとする力の育成	自分から学ぼうとする力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「Step by Step 面談」(6、11月)では、単に受検のためではなく、生活習慣や考え方についても面談を行った。事前・事後指導を大切にしながら、自ら学ぼうとする力の育成することができた。 ○「先輩と語る会」(7/16、高校生6名・神岡中3年生47名参加)では、事前アンケートで中学生が聞きたいことをもとに実施したため、中学生が受け身にならず、積極的に追加の質問をしながら参加できた。また昨年度に続き、夏季休業前の中学3年生の三者懇談前に実施したことで進路選択とつなげることができた。 ○神岡中学校の探Q発表会に高校生が参加し、意見交換することで、互いの取組のよさを学び、各校の探究活動を振り返って学びを深めることができた。 ▲「Step by Step 面談」の成果を次年度に引き継ぎ、今後も時期や方法について相談しながら進めたい。また、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の交流を山之村中も含めて実施していきたい。
	生徒同士(先輩と)の交流	 <p>【Step by Step 面談】</p>  <p>【「先輩と語る会」の様子】</p>
中高教員交流(教員の授業における交流)	<ul style="list-style-type: none"> ○中高の教科担任による事前打ち合わせにより、T1・T2の出番や役割を共通理解することができ、生徒の実態に応じた指導につながった。また、今年度から新たに中学校の総合的な学習の時間、高校の総合的な探究の時間において教員授業交流を行ったことで、各校の特色や成果、課題を共有し、カリキュラムの見直しや、生徒同士の交流につなげることができた。 ○地区内の全教職員が参加した高校授業公開と小中高校の教員交流(7/22)では、小中学校の教員が高校の取組や生徒の実態を知るとともに、意見交流を通して系統性のある学びや発達段階に応じた指導について考えるよい研修の機会となった。 ▲職員の異動や会議のマナー化によって「高校の授業公開」や「(小)中高教員交流」が形骸化しないように、実施の目的や意義を確認するとともに、授業公開や交流のあり方を検討する必要がある。事務局の打合せ会でその点について検討し、実施前に各校で確認して取り組んでいきたい。 	

	<p>高校の授業体験</p> <p>出前授業</p>	<p>○高校授業体験(7/25、神岡中 38 名参加)では、中学と高校の学びが繋がっていることを実感できるよい機会となった。また、小規模校の中学生にとって、他校の生徒と一緒に授業を受けることで視野が広がり、生徒たちの刺激となる大変よい機会であった。</p> <p>○高校生による出前授業(11、12月)では、身近な話題や実演、クイズ等を盛り込んだ租税や俳句、ロボット等の教室を行うことで、中学生は関心をもって学ぶことができた。準備をする高校生にとっても、学んだ内容の理解をさらに深めるとともに、どのように伝えれば中学生に理解してもらえるかを考えて行動するよい学びの機会になった。</p>	 <p>【高校での授業体験】</p>
<p>地域に愛着と誇りを持ち、地域に貢献する態度の育成</p>	<p>生徒同士や地域との交流活動 (生徒会交流や部活動交流を含め)</p>	<p>○MSリーダーズやMSJリーダーズによるふるさと挨拶運動(6、10月)や交通安全運動(9月)では、中高生が小学校の生活委員や警察、地域住民と協力してハイタッチなどの工夫をしながら活動することができた。</p> <p>○神岡中学校や山之村中学校の総合的な学習の発表会を保護者や地域の住民、企業等に向けて行った。また、文化祭や合唱祭、地元イベントでのボランティア活動など、地域との交流活動に多くの生徒が参加し、主体的に活動したことで「地域に貢献できる子」の育成につながった。</p> <p>○中体連前の陸上練習として、小中高校生が飛騨神岡高校のオールウェザーコースを使用して、高校教員から専門的指導を受けて合同練習を行った(6/19)。</p> <p>▲中学校の部活動の地域展開とあわせて、中学校までの部活動や地域クラブ活動を生かした中高合同の練習や、高校の部活動のあり方を検討していきたい。</p>	 <p>【ふるさと挨拶運動】</p>
<p>地域に愛着と誇りを持ち、地域に貢献する態度の育成</p>	<p>地域の人や産業から学ぶ体験学習の充実 (校内企業展やひだかみアカデミア) (わくわくワーク)</p>	<p>○校内企業展(5/15、飛騨神岡高)や「わくわくワーク」(11/28、神岡中・山之村中、神岡小6年生も参加)では、神岡商工会議所青年部や地元企業の方との連携により、仕事体験や紹介の場を設け、児童生徒の職業観を養い、地域への理解を深めるとともに、地域の活性化を図ることができた。</p> <p>○第3回ひだかみアカデミア「がくしゃへGO！」(11/9、飛騨神岡高)を開催し、世界的な学者や地域で活躍する専門家、高校の卒業生などを講師に招き、学ぶ楽しさを体験できる場づくりを行った。地域の歴史や宇宙、生き物、大工の話など計22講座に、小学生から大人までが参加して学びを楽しむことができた。</p> <p>▲各校とも地域と連携した取組が充実してきたことをふまえ、総合的な学習の時間・探究の時間に関連付けた教育活動の工夫を行うとともに、授業の時間数や担当者の調整・連絡等の負担軽減を考慮して活動内容を精選したり、連携・協働の効率化を進めたりする必要がある。</p>	 <p>【わくわくワーク】</p>  <p>【ひだアカデミアの様子】</p>
	<p>地域をつなぐ情報発信</p>	<p>○学校だより(右の画像)やチラシの配布、同報無線、学校のホームページやSNSなどの多様な方法で積極的に広報活動を行ったことで、各種イベントへの保護者や地域住民の参加者が増え、生徒の活動や活躍について地域の方々に広く知ってもらえるようになった。</p> <p>○学校説明会やPTA総会等で、神岡町連携型中高一貫教育の仕組みや取組について、具体例を挙げながら丁寧に説明したことで、保護者への周知を図った。また、各種取組の開催にあたって各校の委員が情報共有しながら関係者や団体への連絡や周知を大事にしたため、協力者が増え、独自性を生かした活動を進めることができた。</p>	 <p>交流で視野を広げる</p> <p>11月11日はStep by Stepを実施し、飛騨神岡高校の先生方と中学生で活発な意見交流をしました。</p> <p>子どもたちは、様々な人との出会いを経験し、多様な考え方や価値観に触れて視野を広げるよい場となりました。</p> <p>高校の先生から生き方や進路について学ぶ機会。いつもと違う教員からの刺激は大きく、子どもたちの将来への意欲を高めました。</p>